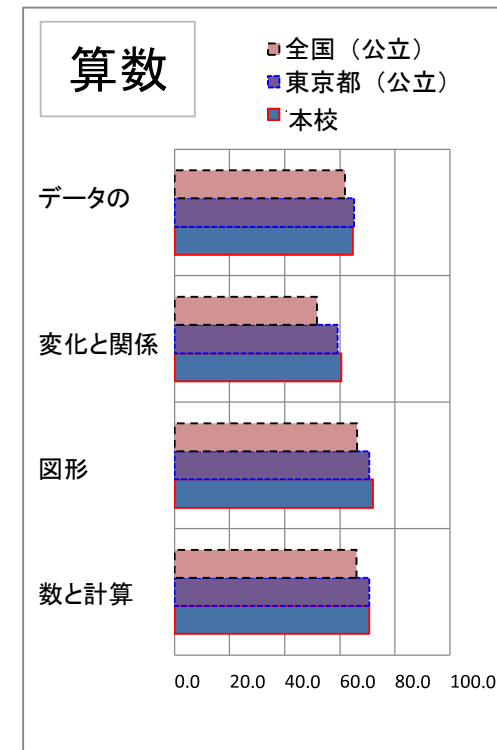
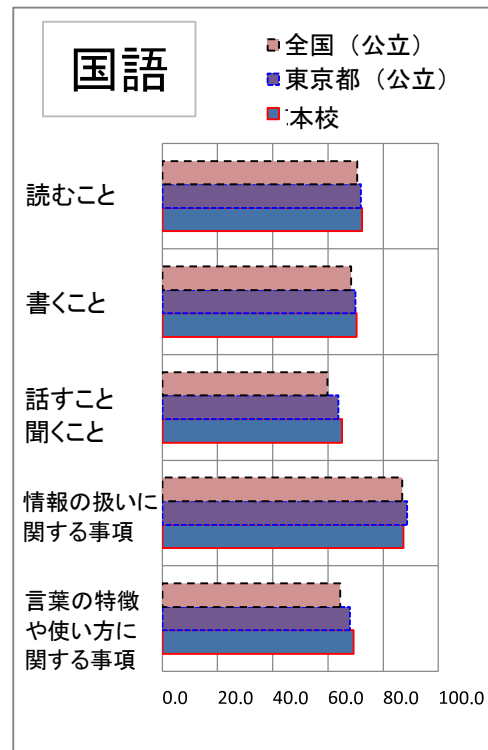
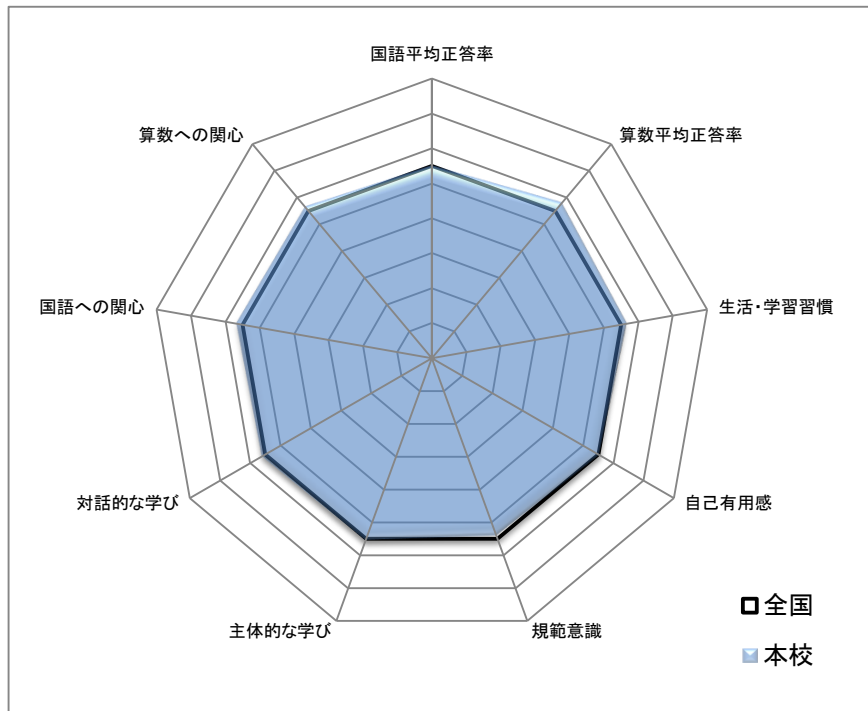


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表 (小学校)

江戸川区立小松川第二小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



上のチャートは、国語と算数の平均正答率と児童質問紙調査から分かった「児童の学習や生活に関する関心」について、全国を母数とした本校の調査結果を示したものである。本校の調査結果を見ると、国語科、算数科ともに、全国平均とほぼ同じ結果であることが分かる。

児童の学習や生活に関する関心では、自己有用感や国語、算数への関心など、全国平均をほぼ上回り、バランスのとれたチャートとなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

国語、算数の平均正答率が全国平均であることから、少しずつ家庭学習の習慣が定着していることがうかがえる。今後もさらに、ICTを活用したドリル学習の課題などを計画的に実施し、さらなる基礎学力の定着を図る。

《現状把握》

国語、算数ともにほとんどの項目で東京都や全国平均をやや上回っている。ただし、解答方法が記述式になると、50%と正答率が落ち、他の解答方法(選択式や短答式)に比べて低くなるという課題がある。

《授業改善のポイント》

上記の結果から、思考力、判断力、表現力を伸ばすための学習活動を多く取り入れていく。

国語では、図や表を使って自身の考えを相手に分かりやすく表現する学習を取り入れたり、授業の中のグループ活動で、自分の考えを他者と伝え合う活動を多く取り入れたりしていく。

算数では、丁寧な指導を行い、個の能力に応じた学習ができるようにしていく。また、自力解決だけではなく、他者に自分の考えを説明したり、図や式を使って自分がどのように考えたのか児童同士で伝える活動を多く取り入れたりしていく。